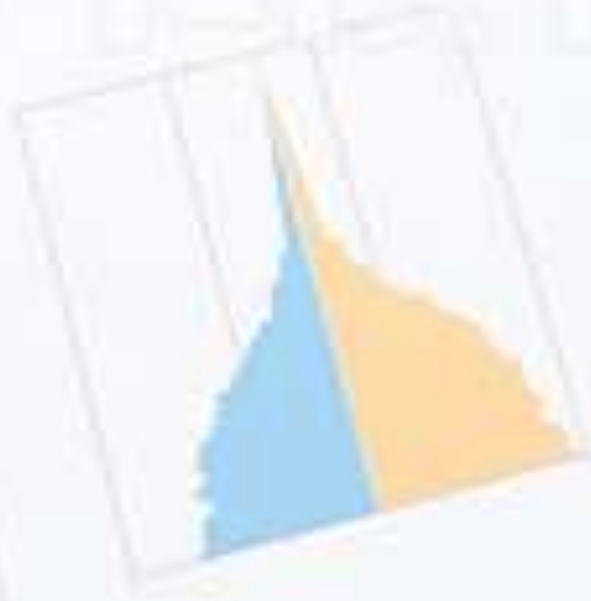
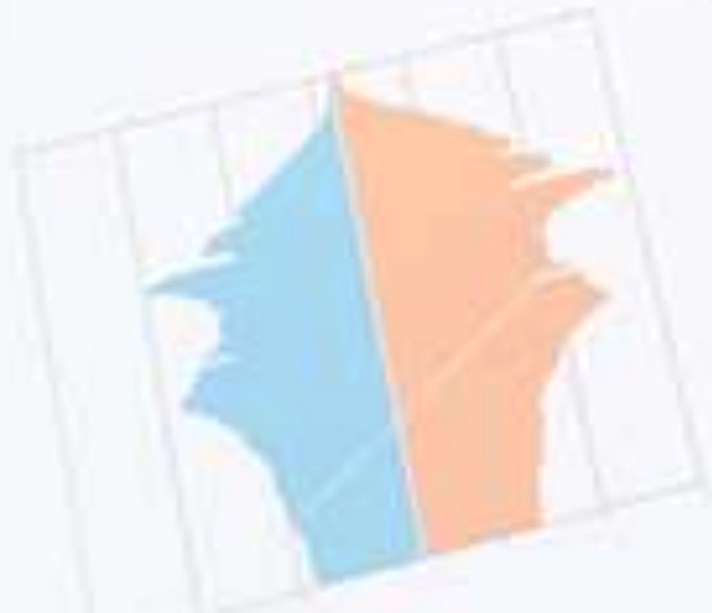
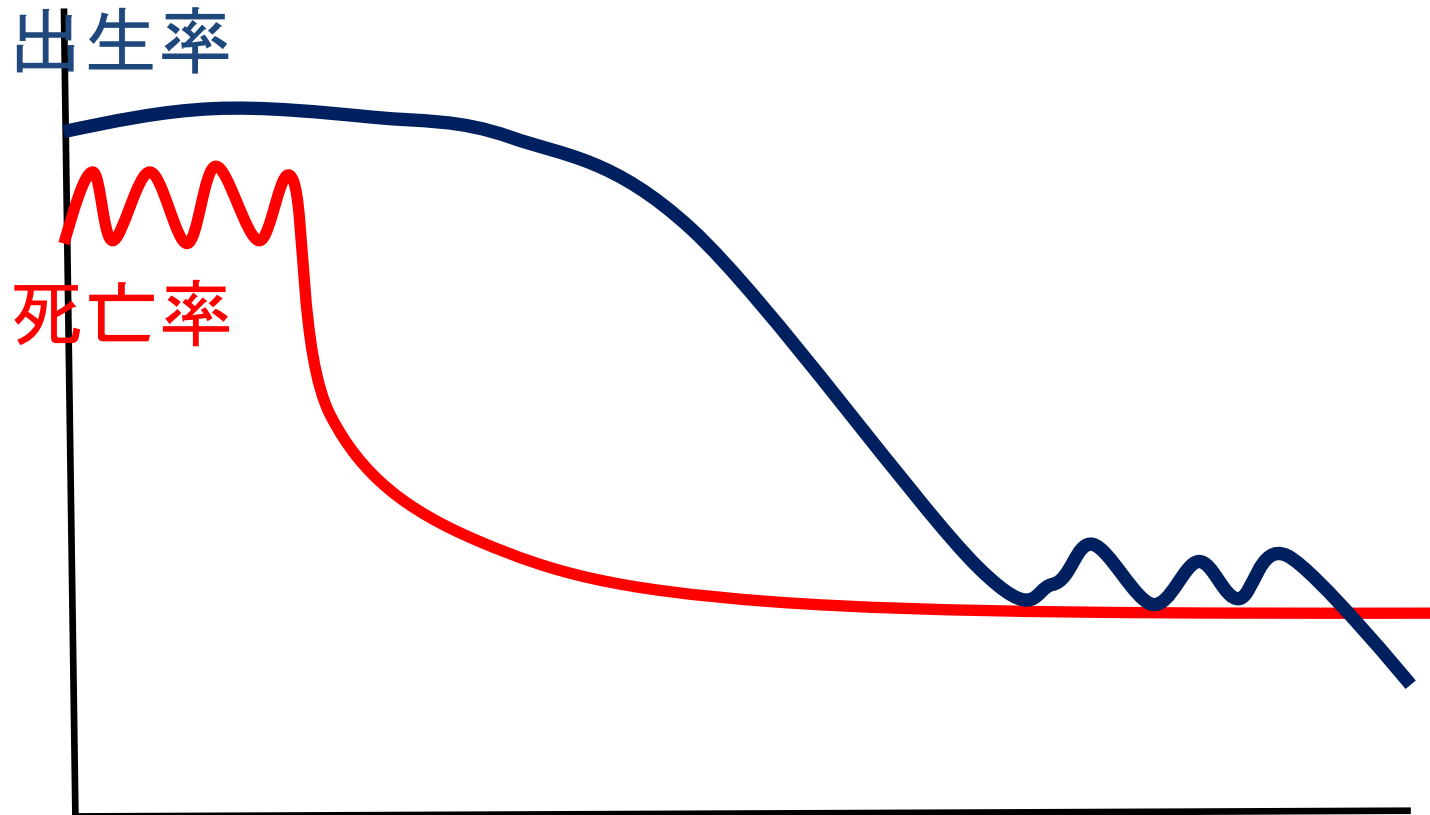


人口関連グラフ



1 人口増減の傾向(人口動態)を見るためのグラフ

(1) 出生率・死亡率の時系列変化のグラフ



【参考】人口増減率の求め方

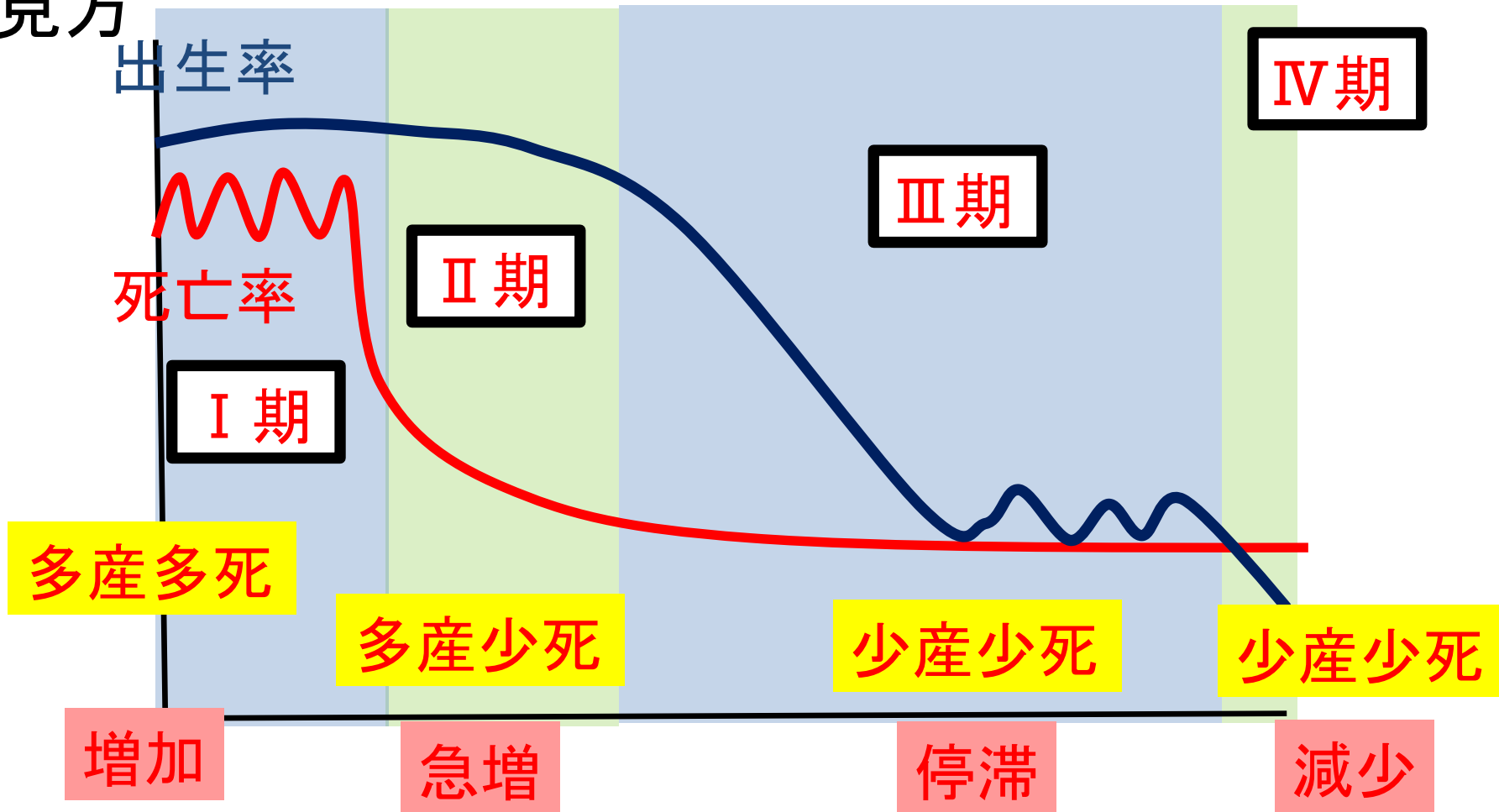
自然増加率	(出生率	-	死亡率)	人の生き死に
			+			
社会増加率	(移入率	-	移出率)	人の移動

※千分率(1000人中の何人かの割合)で示す

‰ (パーミル)

➡ ただし国家単位では **自然増加率** のみで増減をみることが多い

①見方

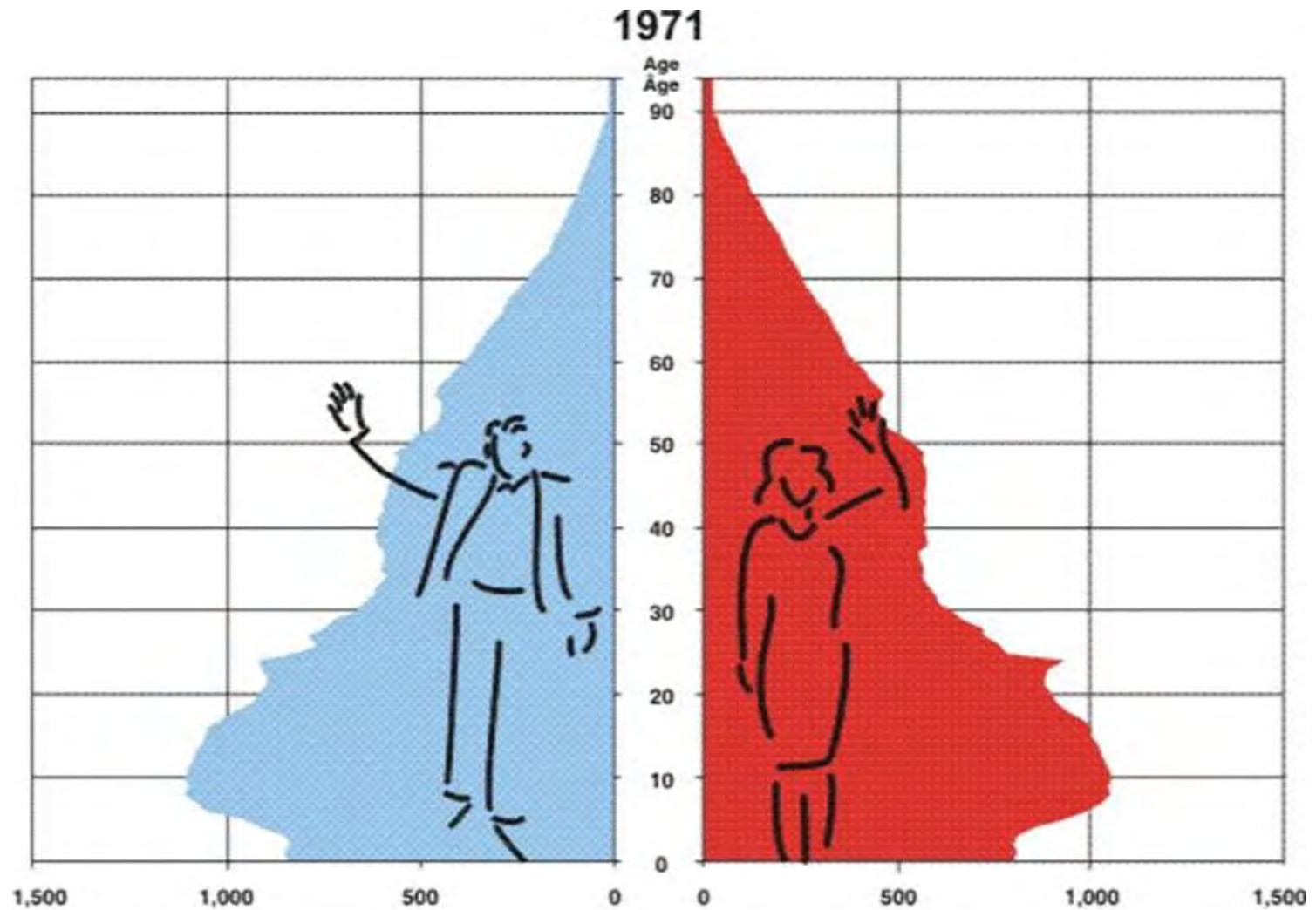


※ I 期→II 期などに人口動態が変わることを
人口転換 (人口革命)という。

②それぞれの人口動態の社会・地域の性格

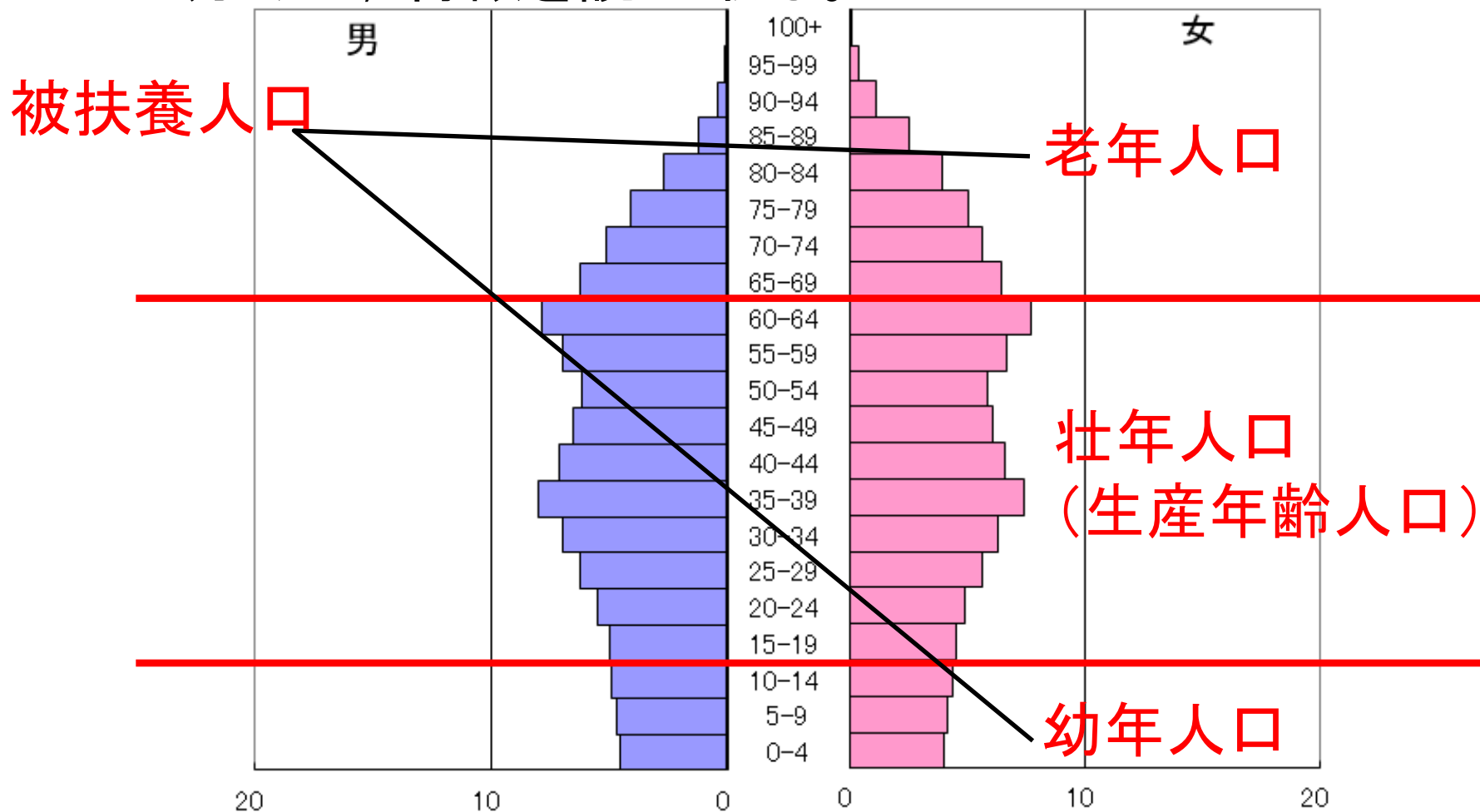
- ・ I 期 【多産多死】型…**発展途上国型**、**人口漸増**
- ・ II 期 【多産少死】型…医療・衛生状態の改善で乳幼児死亡率低下
人口急増
- ・ III 期 【少産少死】型…**先進国型**、**人口停滞**
(家族計画の普及で出生率低下)
- ・ IV 期 【少産少死】型…先進国型(**人口減社会**)、
少子高齢化

(2) 人口ピラミッド(年齢階層別人口構成図)



①見方

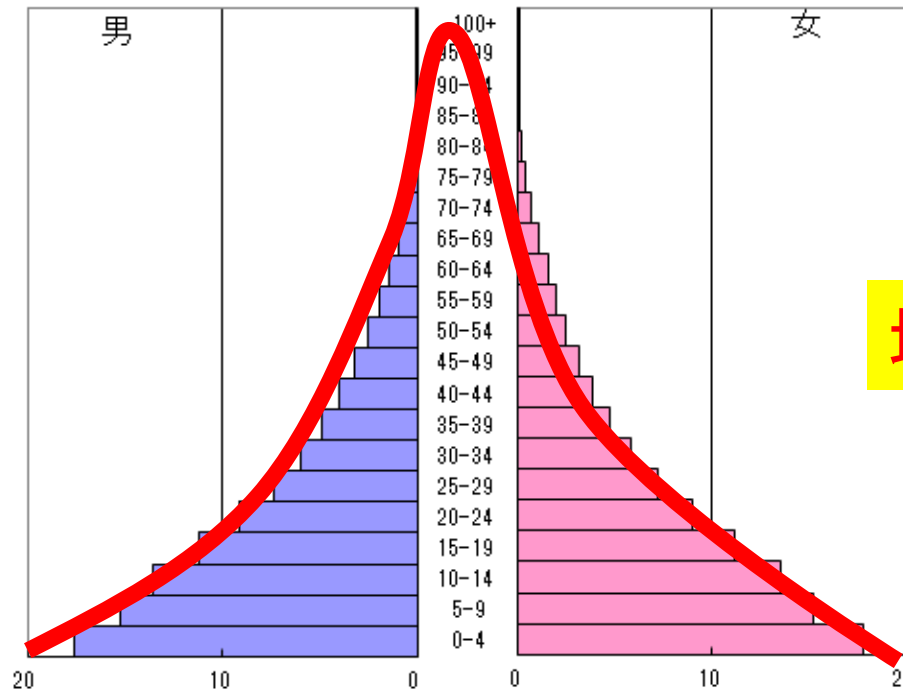
■ 15歳，65歳の所に作業線を入れて，3つの年齢階層に分けて，特徴を読み取る。



②人口ピラミッドの形だけで地域，国の特色を推察することもできる。

■アフガニスタン2010年(**ピラミッド型**)

2010年 年齢階層別人口構成 Afghanistan (単位:%)

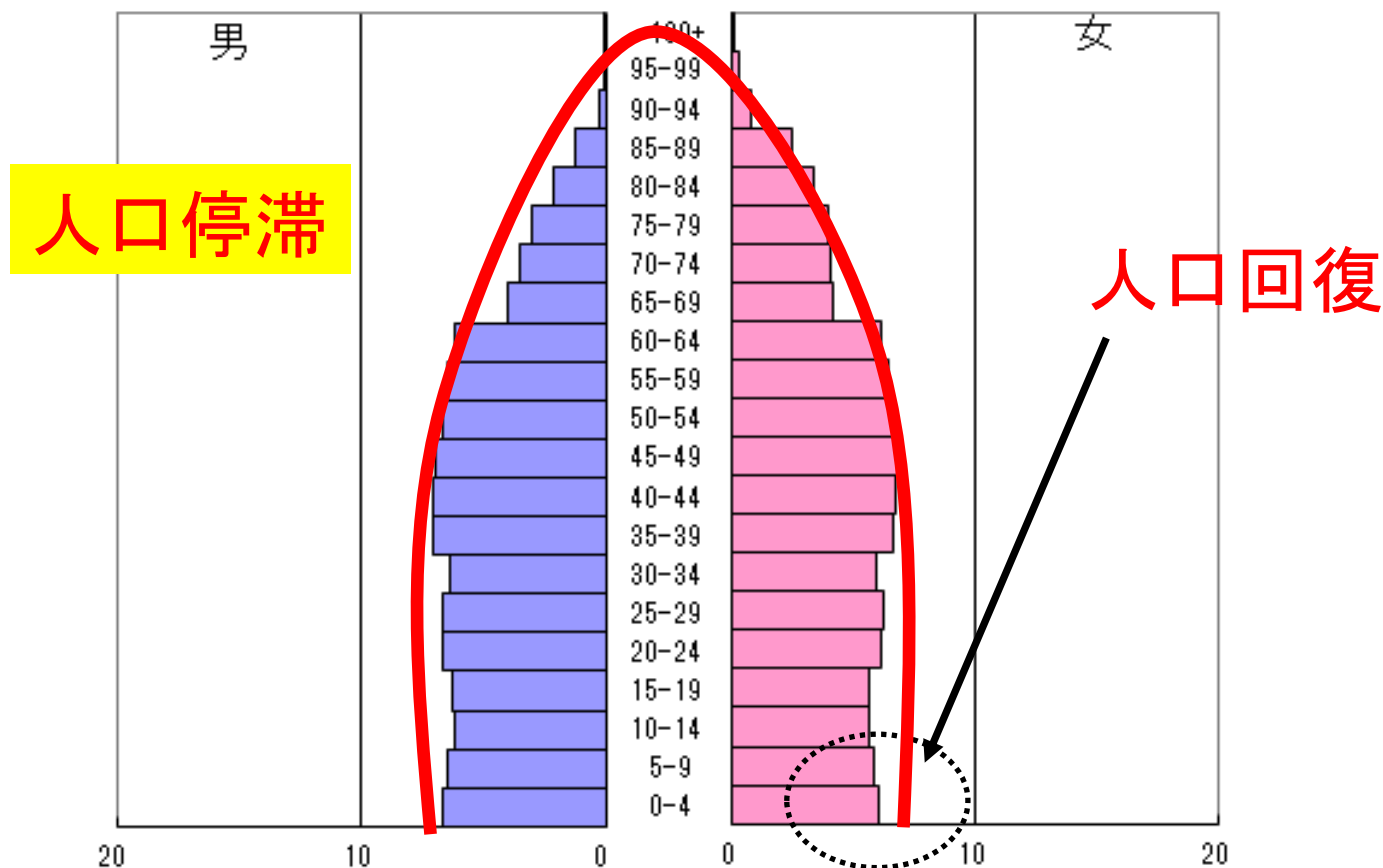


→多産多死の 発展途上国 が多い

■②フランス 2010年(つりがね型)

2010年 年齢階層別人口構成 France

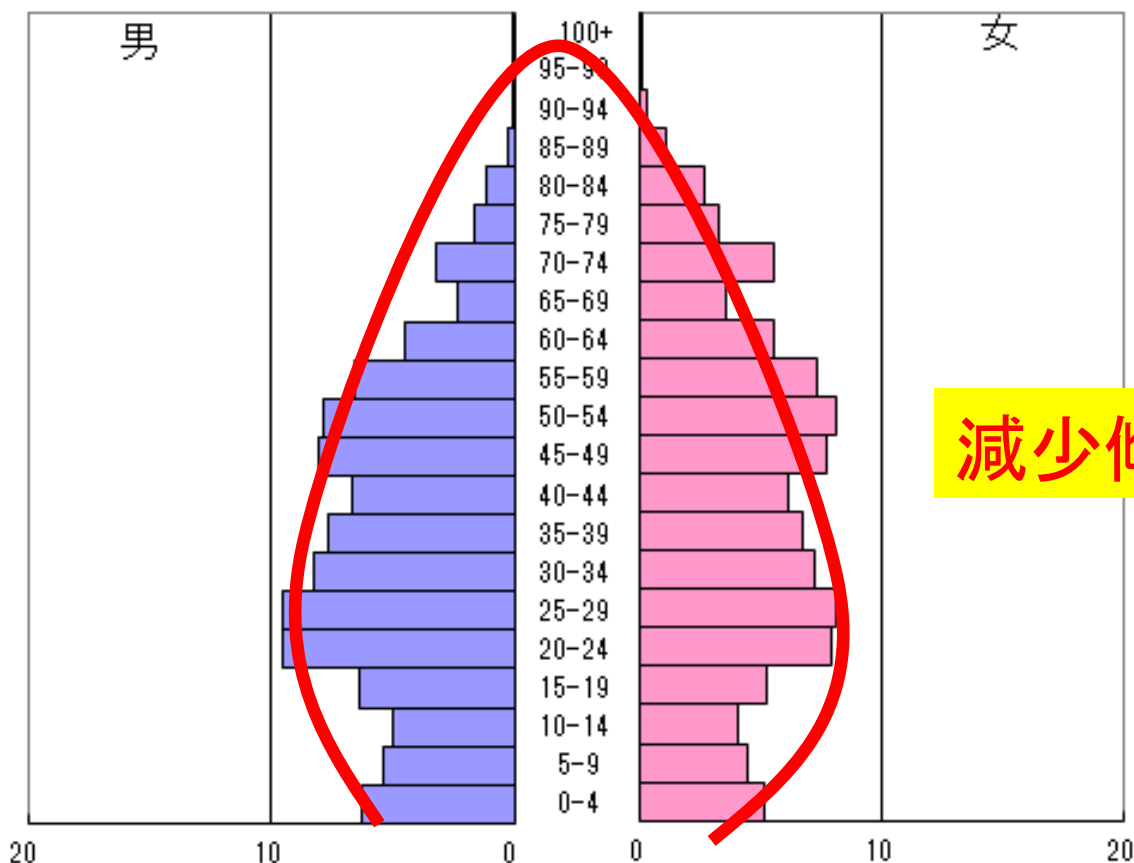
(単位:%)



→少産少死の 先進国 が多い

■ロシア 2010年(つぼ型)

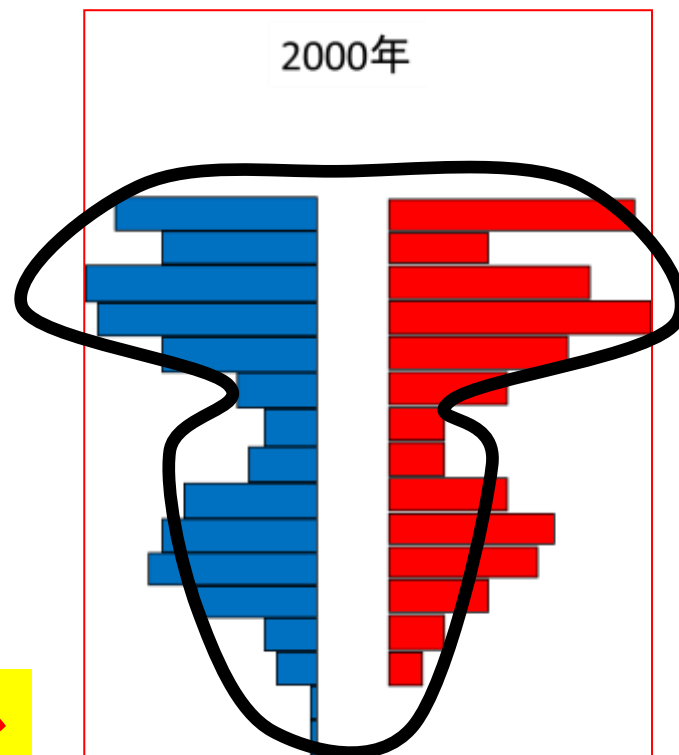
2010年 年齢階層別人口構成 Russian Federat (単位:%)



→少産少死の 先進国 が多い

③人口ピラミッドの形から,地域社会の特色を推察することもできる。

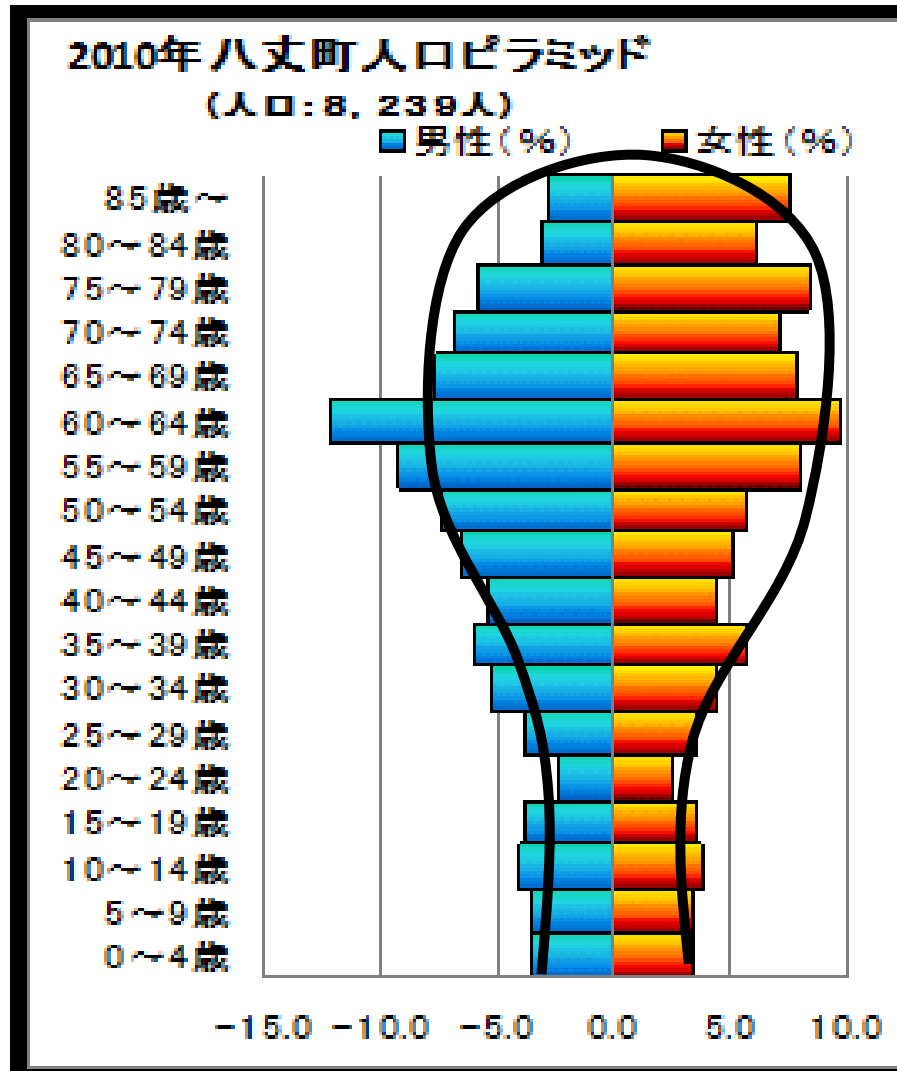
■多摩ニュータウン(ひょうたん型)



人口減少

→壮年人口(とくに中堅)が流出している 過疎地域

■八丈島町 (キノコ型)

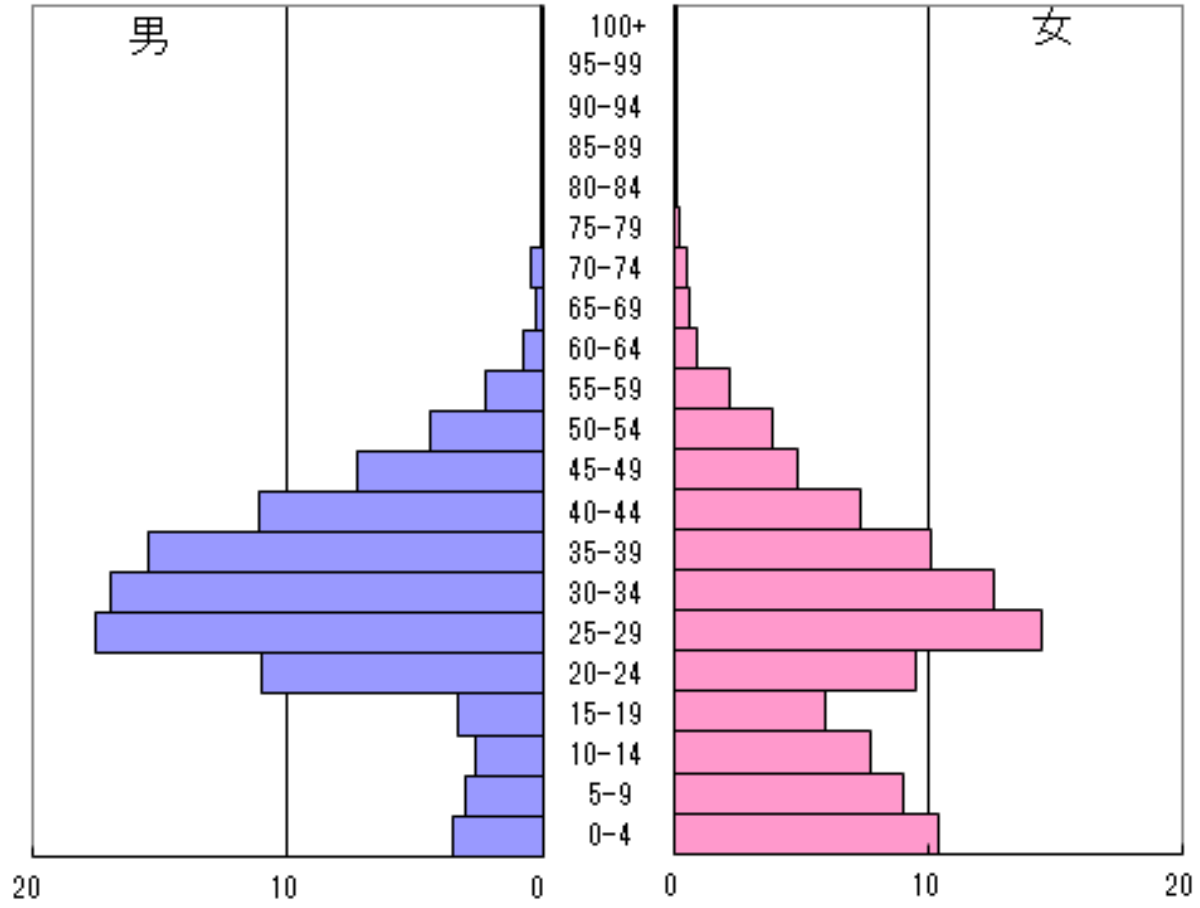


人口減少

→ 壮年人口が流出している 過疎地域

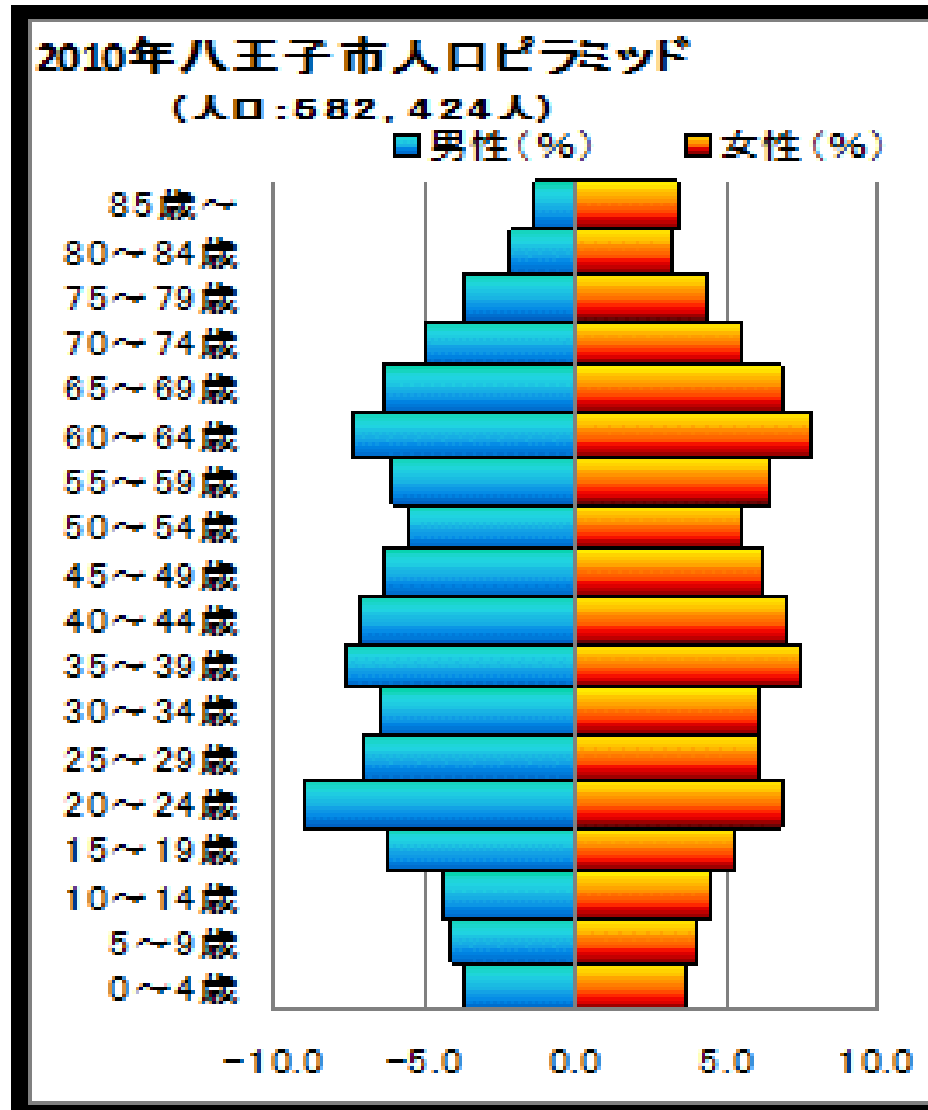
■クウェート(星型, ひとで型)

2010年 年齢階層別人口構成 Qatar (単位:%)



→外国人労働者が流入している 工業国

■八王子市(星型, ひとで型)



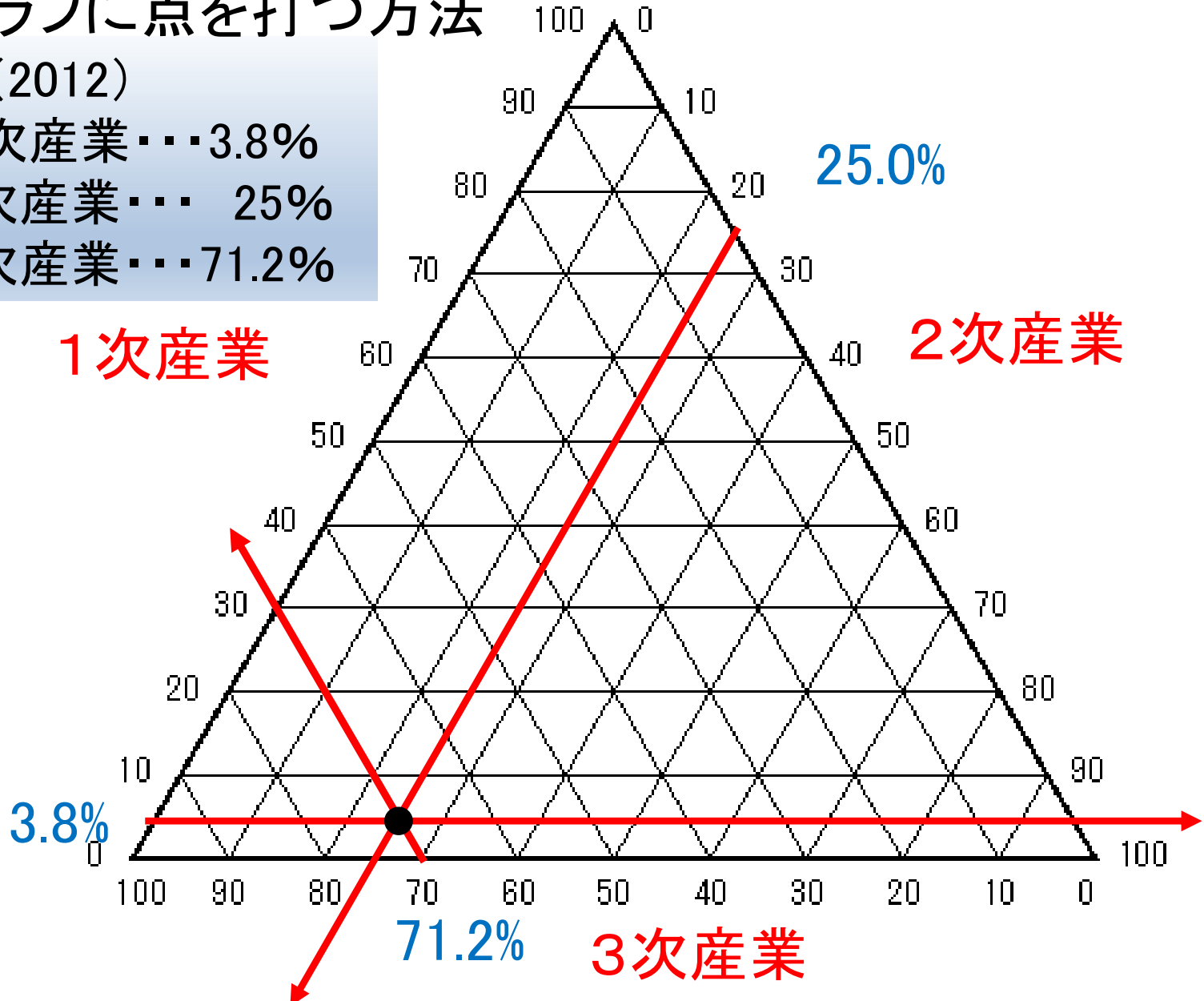
→学生が多い 文教地区(大学・大学院が164)

2 国・地域の経済発展の度合い,産業構成をみるときつかうグラフ 【三角図表(産業別人口構成図)】

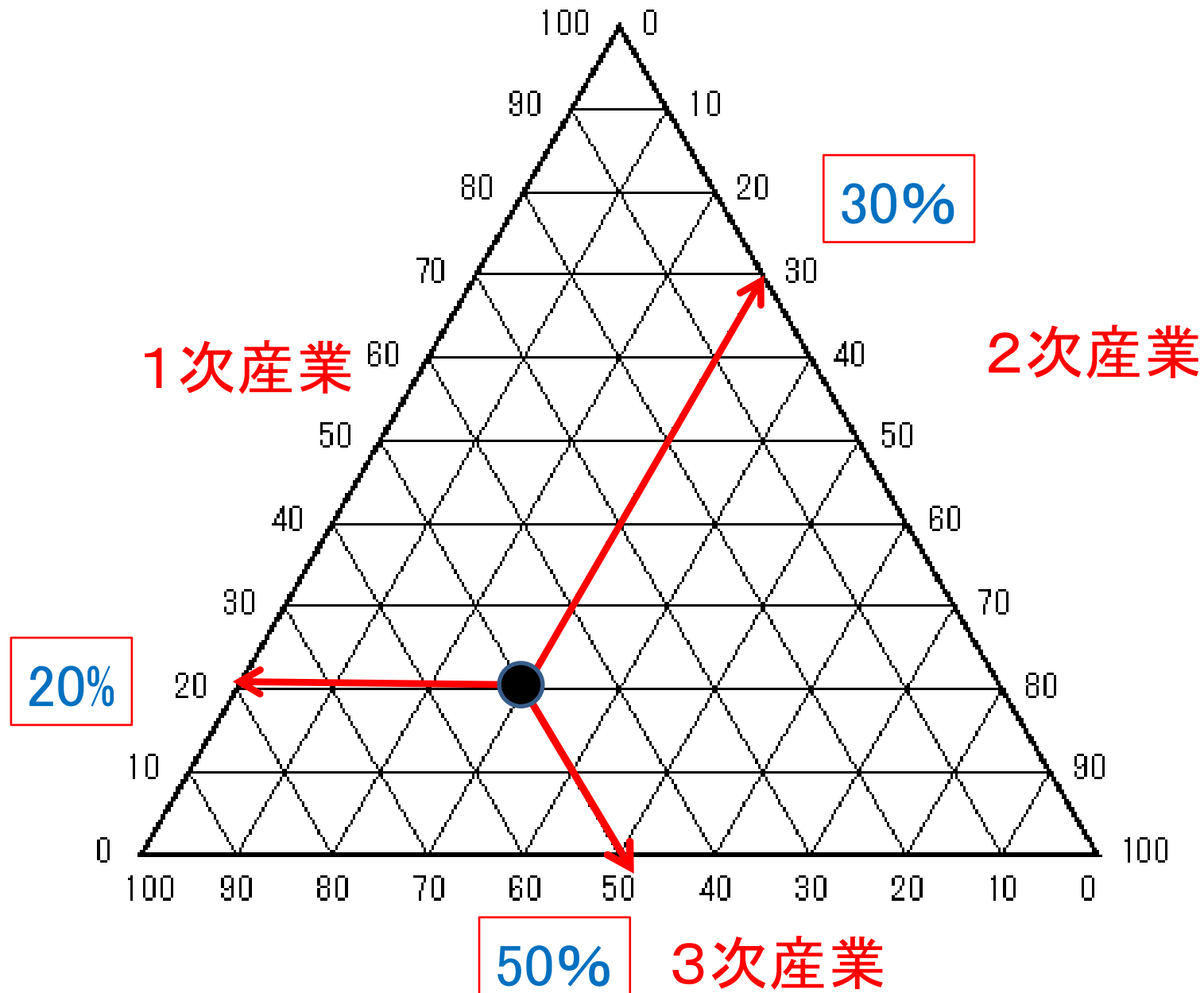
① グラフに点を打つ方法

日本(2012)

- 1次産業・・・3.8%
- 2次産業・・・25%
- 3次産業・・・71.2%

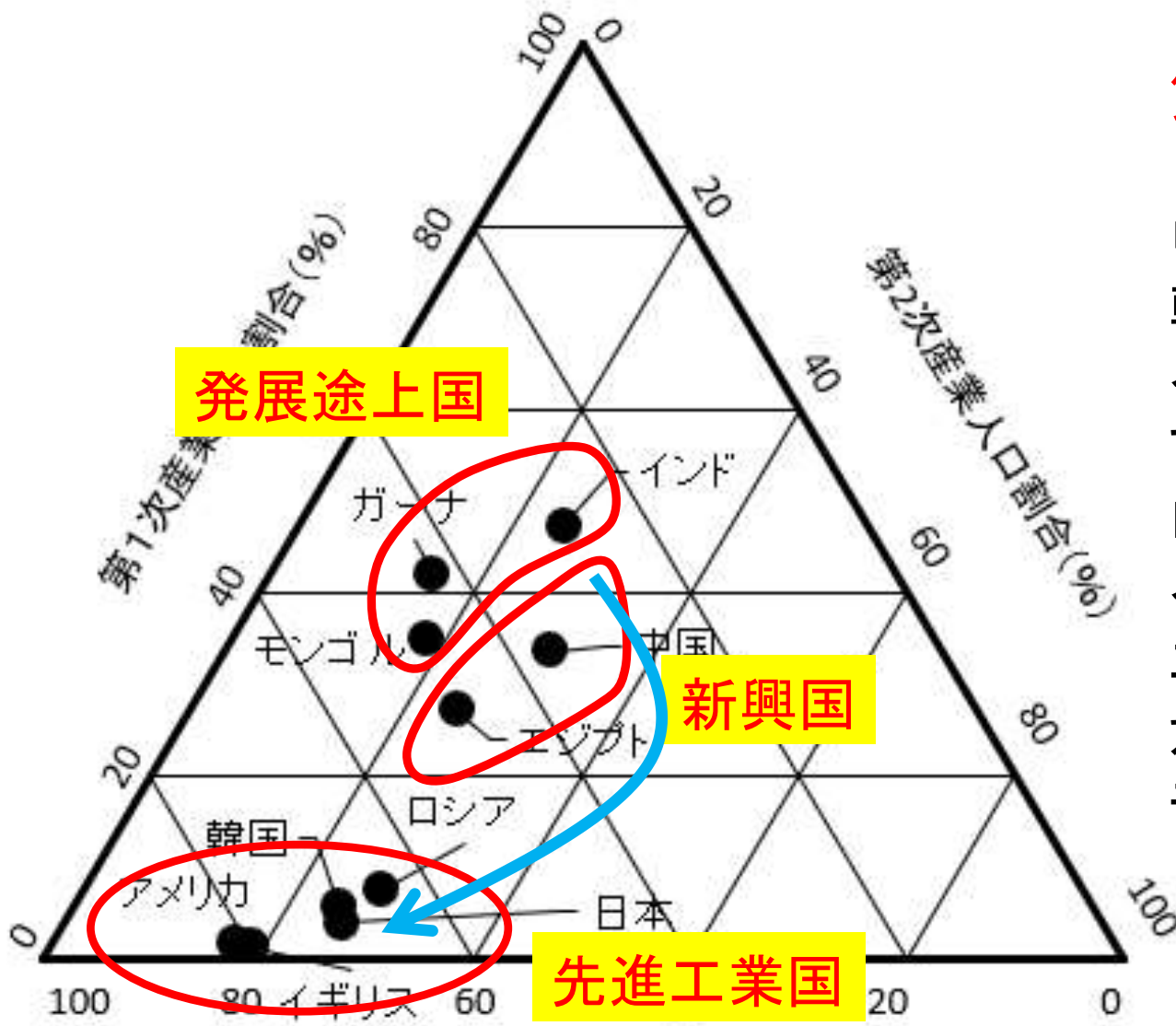


②見方



③点の位置から、経済発展の度合いを見極める方法

※経済発展とともに左上から左下へ点が移動



第1次産業人口割合

日本	3.8
中国	33.6
韓国	5.7
インド	47.2
アメリカ	1.6
ロシア	7.3
イギリス	1.2
エジプト	27.1
ガーナ	42
モンゴル	35

3 国ごとの社会の性格をみるにつかわれるグラフ

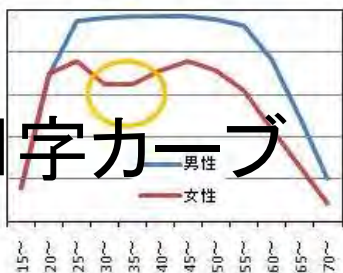
【性別の労働力人口率のグラフ】

子育て期間

か国の年齢層別労働力人口率(%)

日本(2008年)

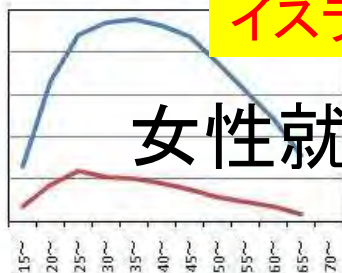
M字カーブ



イラン(2008年)

イスラムの影響

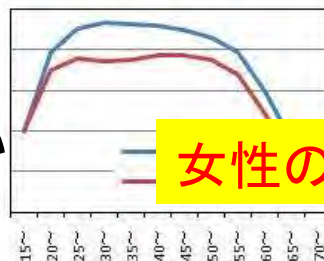
女性就業少ない



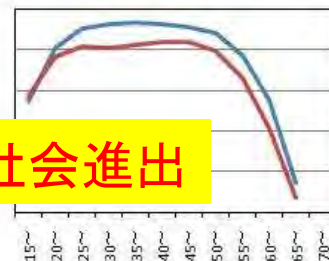
北米・南米6か国の年齢層別労働力人口率(%)

アメリカ(2008年)

女性の社会進出



カナダ(2008年)



女性就業少ない

インドネシア(2008年)

イスラムの影響



韓国(2007年)

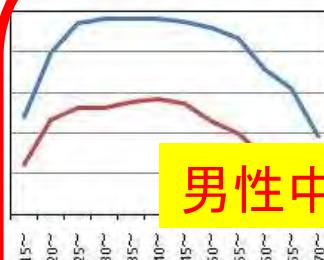
子育て期間

M字カーブ

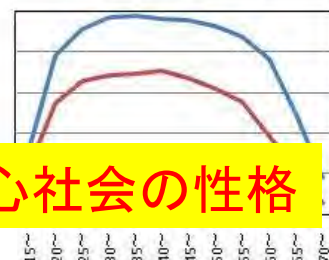


メキシコ(2008年)

男性中心社会の性格



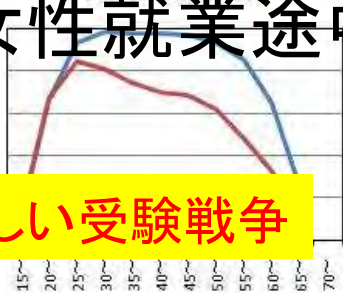
アルゼンチン(2006年)



女性就業途中から減少

シンガポール(2008年)

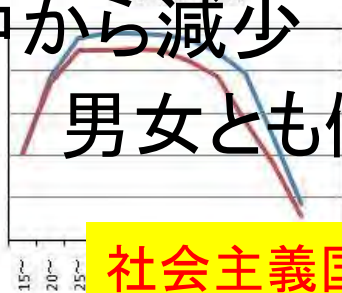
激しい受験戦争



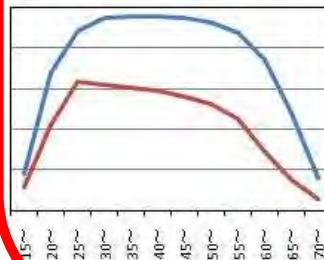
ベトナム(2004年)

男女とも働く

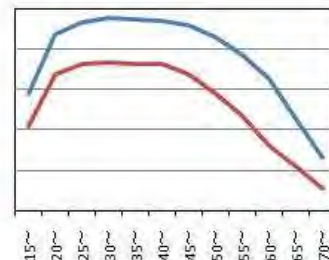
社会主義国



チリ(2008年)



ブラジル(2007年)



ヨーロッパ6か国の年齢層別労働力人口率(%)

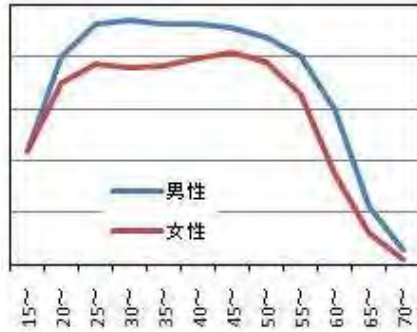
アフリカ・オセアニア4か国の年齢層別労働力人口率(%)

イギリス(2008年)

イタリア(2007年)

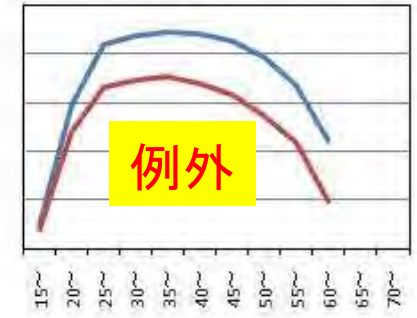
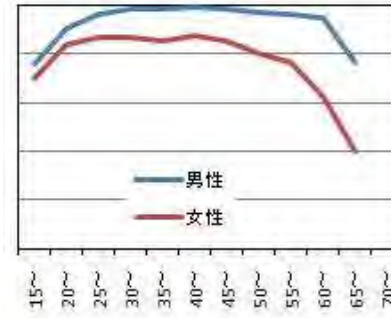
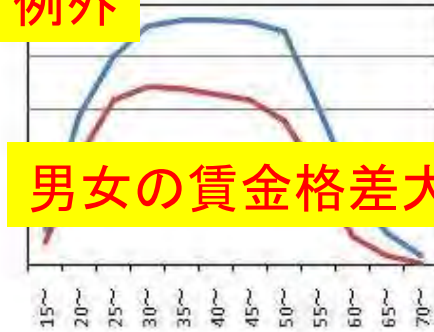
エチオピア(2005年)

南アフリカ(2008年)



例外

男女の賃金格差大



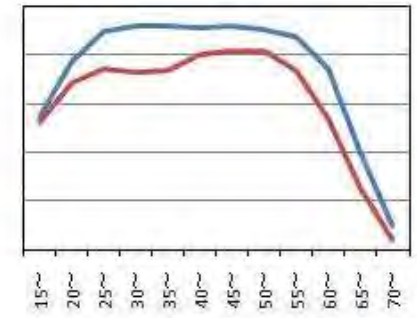
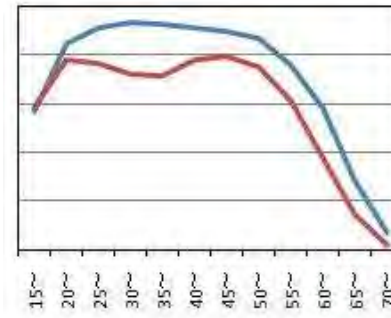
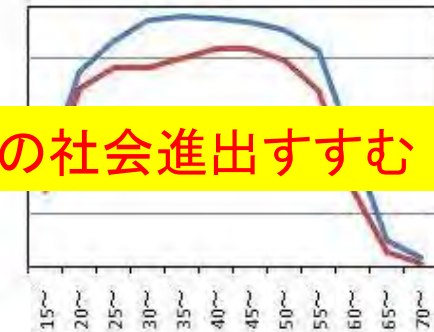
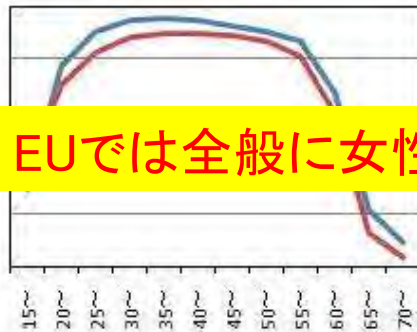
例外

スウェーデン(2008年)

ドイツ(2008年)

オーストラリア(2008年)

ニュージーランド(2008年)

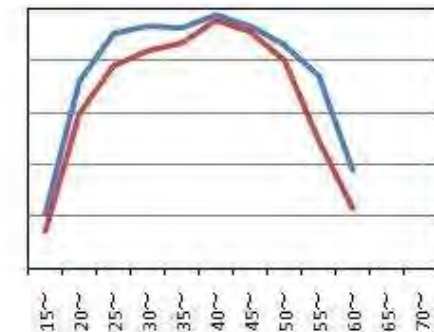
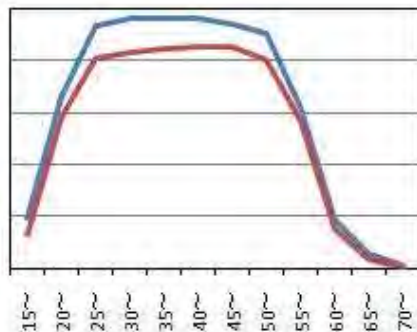


EUでは全般に女性の社会進出すすむ

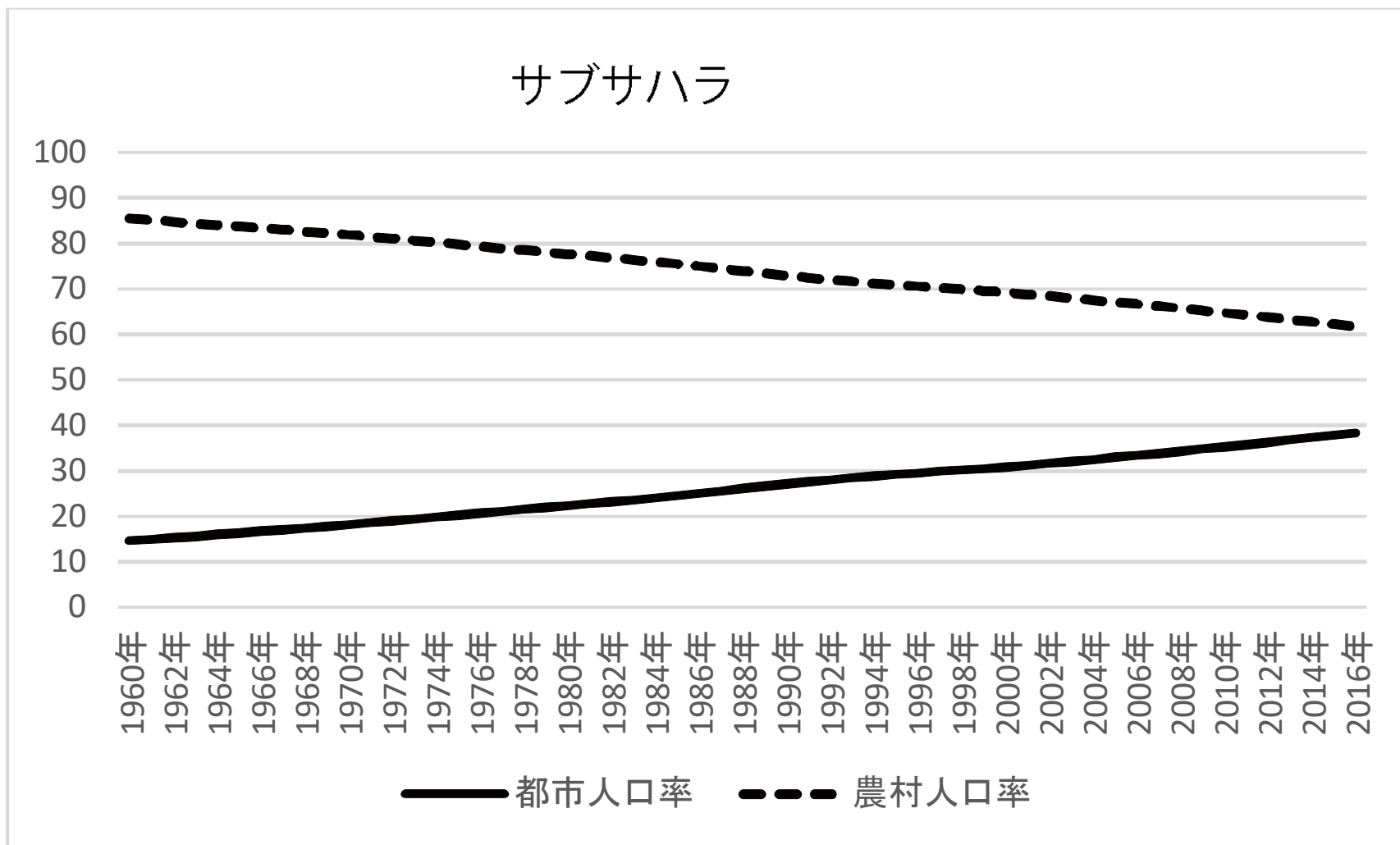
フランス(2008年)

ロシア(2008年)

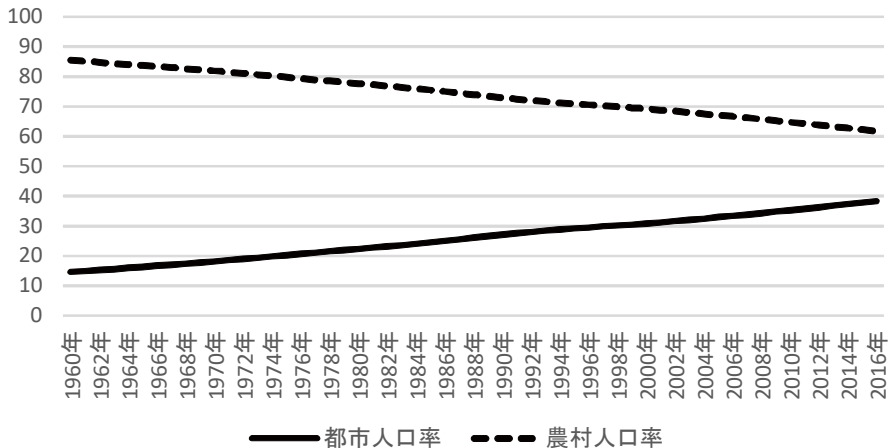
一次産業中心のため
子ども期の就業人口多い



4 国・地域ごとの都市化の進捗をみるときに使うグラフ 【都市人口率と農村人口率の時系列変化のグラフ】

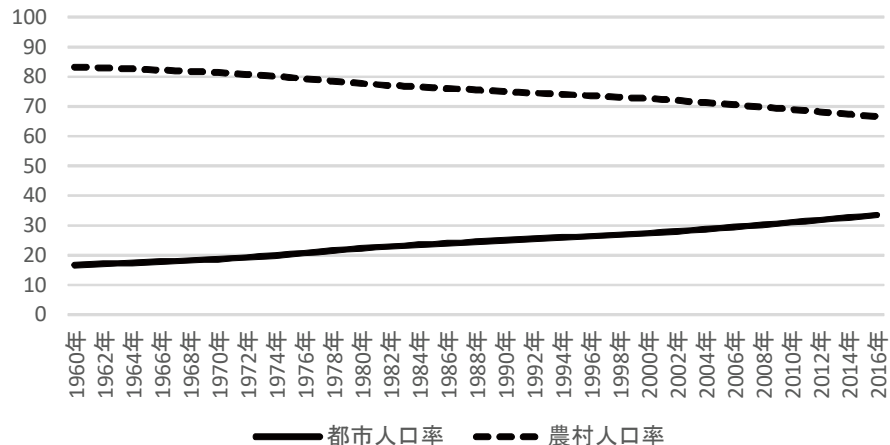


サブサハラ



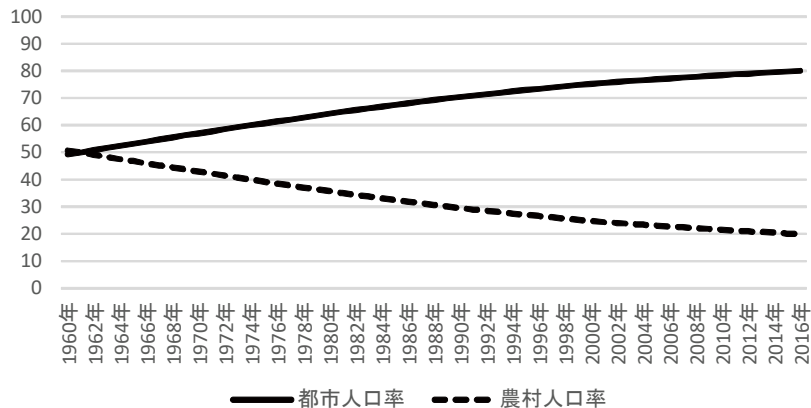
遅れた農業地域から、人口爆発で都市に人口流出へ

南アジア



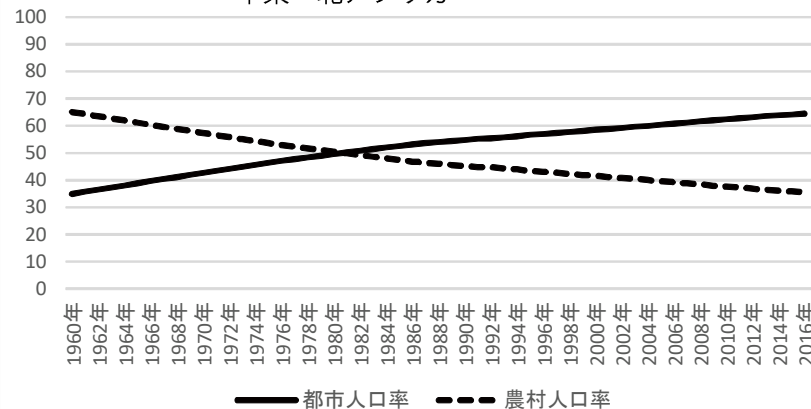
遅れた農業地域の性格がよく残る

ラテンアメリカ・カリブ海



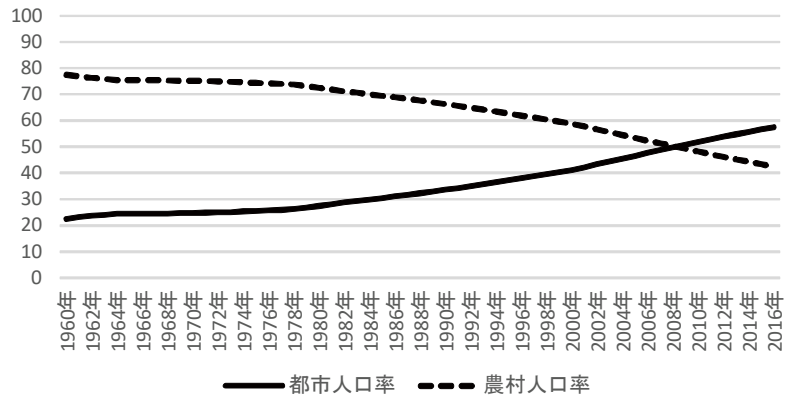
戦後、アメリカの影響下で都市化が急速にすすむ

中東・北アフリカ



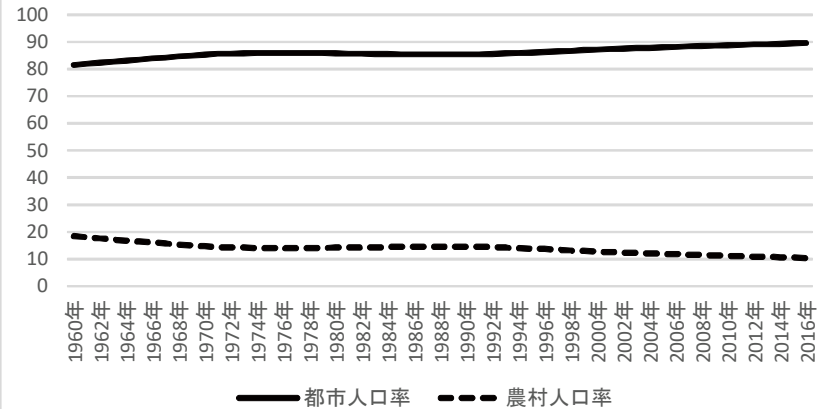
オイルショック後の都市化進展

東アジア・大洋州



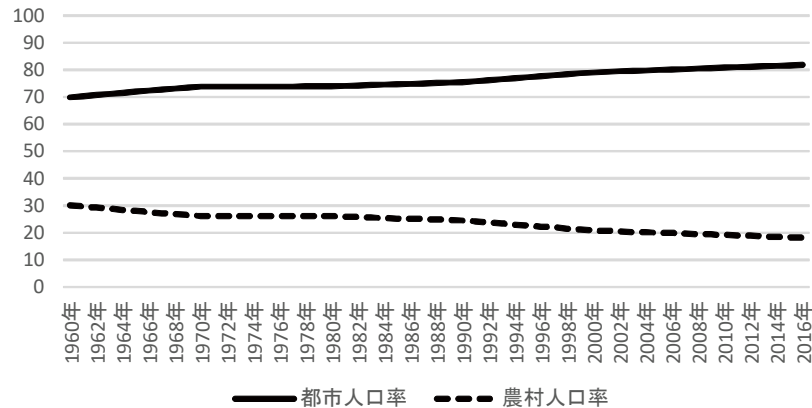
1970年代後半から都市人口が急速に増える

オーストラリア



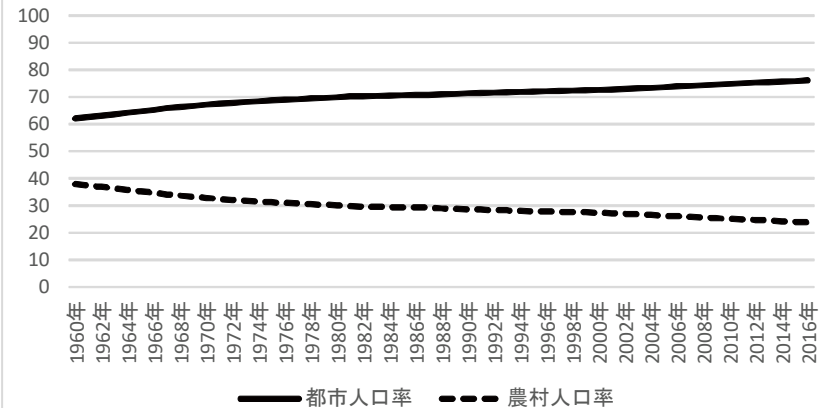
都市人口率は昔から高位安定
(居住に適さない乾燥地域の割合が国土の2/3)

北アメリカ



都市人口率は昔から高位安定
(工業発展が背景)

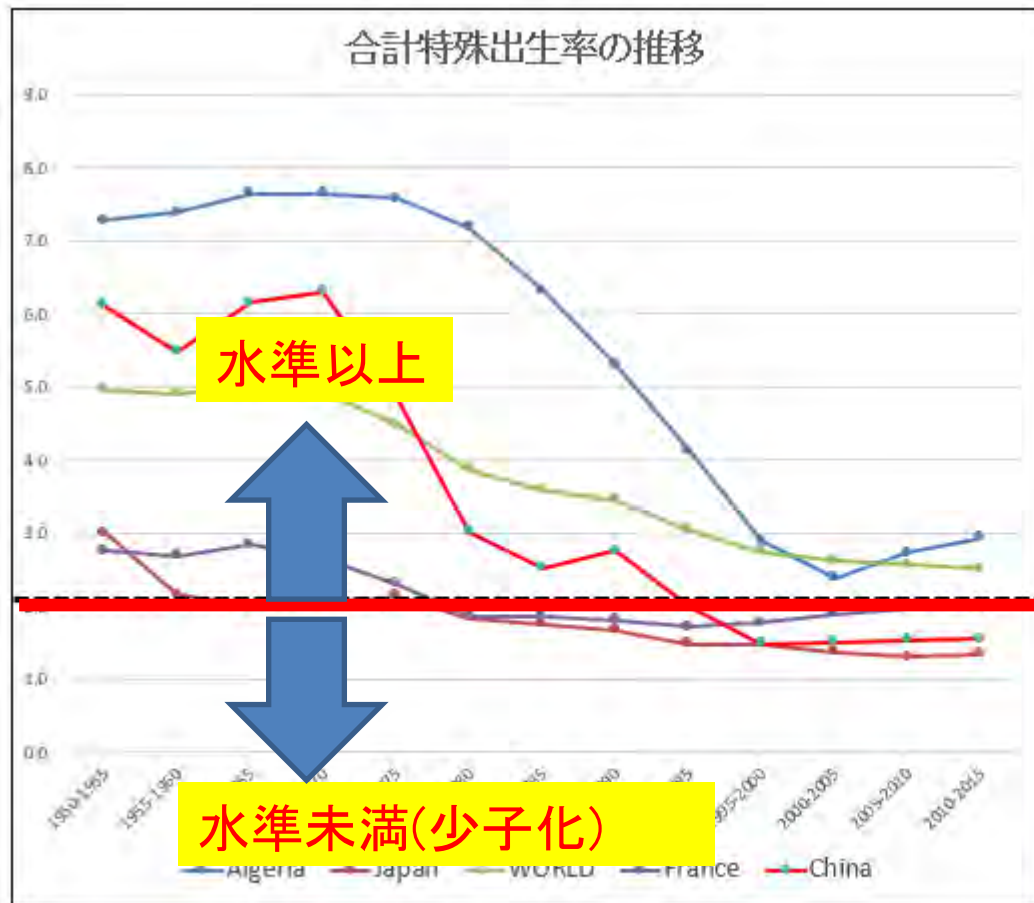
ヨーロッパ



都市人口率は昔から高位安定
(工業発展が背景)

5 国・地域ごとの少子化の進捗をみるときに使うグラフ

【合計特殊出生率の時系列変化のグラフ】



----- 人口置換水準

下のリストを参考に国名番号を入力してください

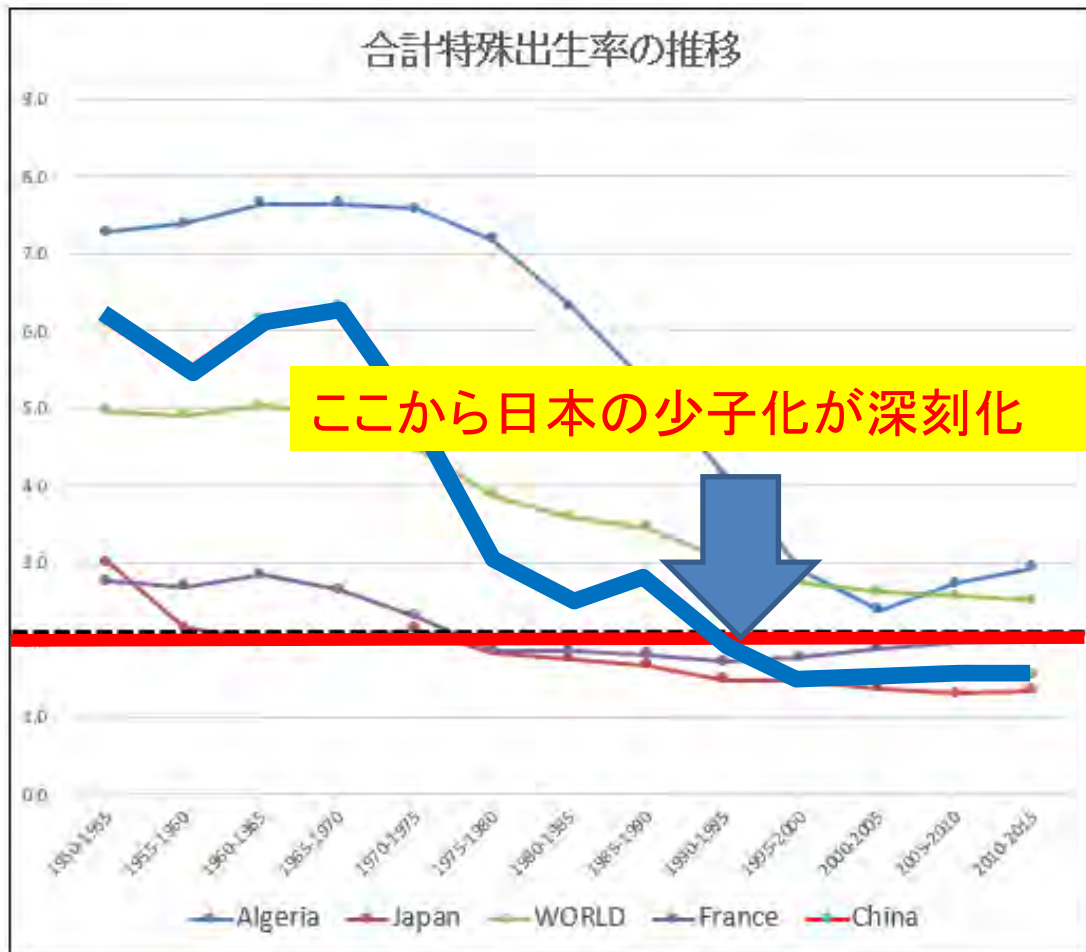


- 3 Algeria
- 91 Japan
- 202 WORLD
- 59 France
- 36 China

番号	国・地域
0	グラフ表示なし
1	Afghanistan
2	Albania
3	Algeria
4	Angola
5	Antigua and Barbuda
6	Azerbaijan
7	Argentina
8	Australia
9	Austria
10	Bahamas
11	Bahrain

※人口置換水準(2.07)とは、人口再生産に最低でも必要な数値

日本のグラフの見方



----- 人口置換水準

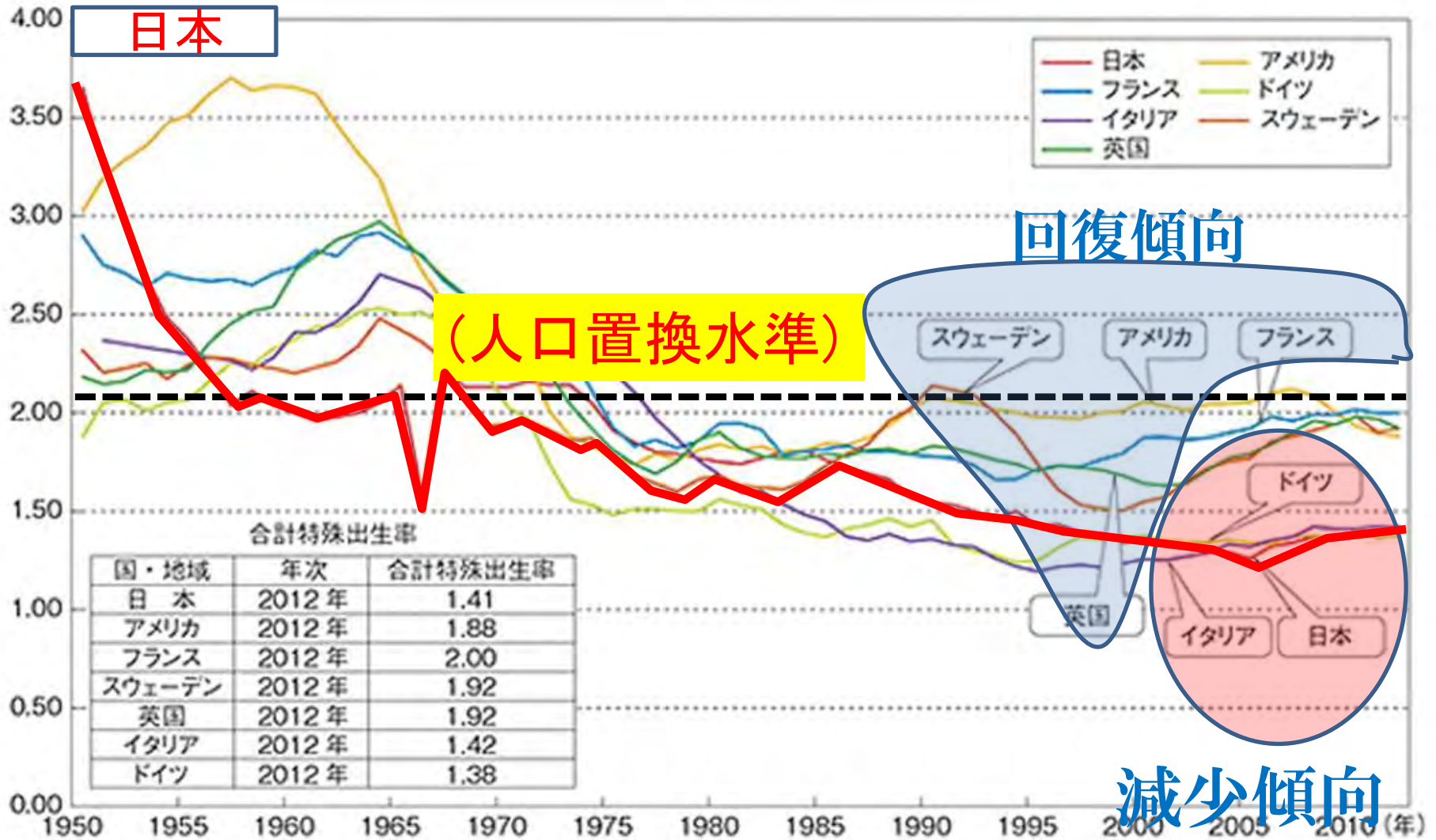
下のリストを参考に国名番号を入力してください



3	Algeria
91	Japan
202	WORLD
59	France
36	China

番号	国,地域
0	グラフ表示なし
1	Afghanistan
2	Albania
3	Algeria
4	Angola
5	Antigua and Barbuda
6	Azerbaijan
7	Argentina
8	Australia
9	Austria
10	Bahamas
11	Bahrain

■ 日本と欧米先進国との少子化傾向の比較



1)減少傾向 日本・ドイツ・イタリア

➡ 特に 日本 は合計特殊出生率が低い
1.42(2015年現在)

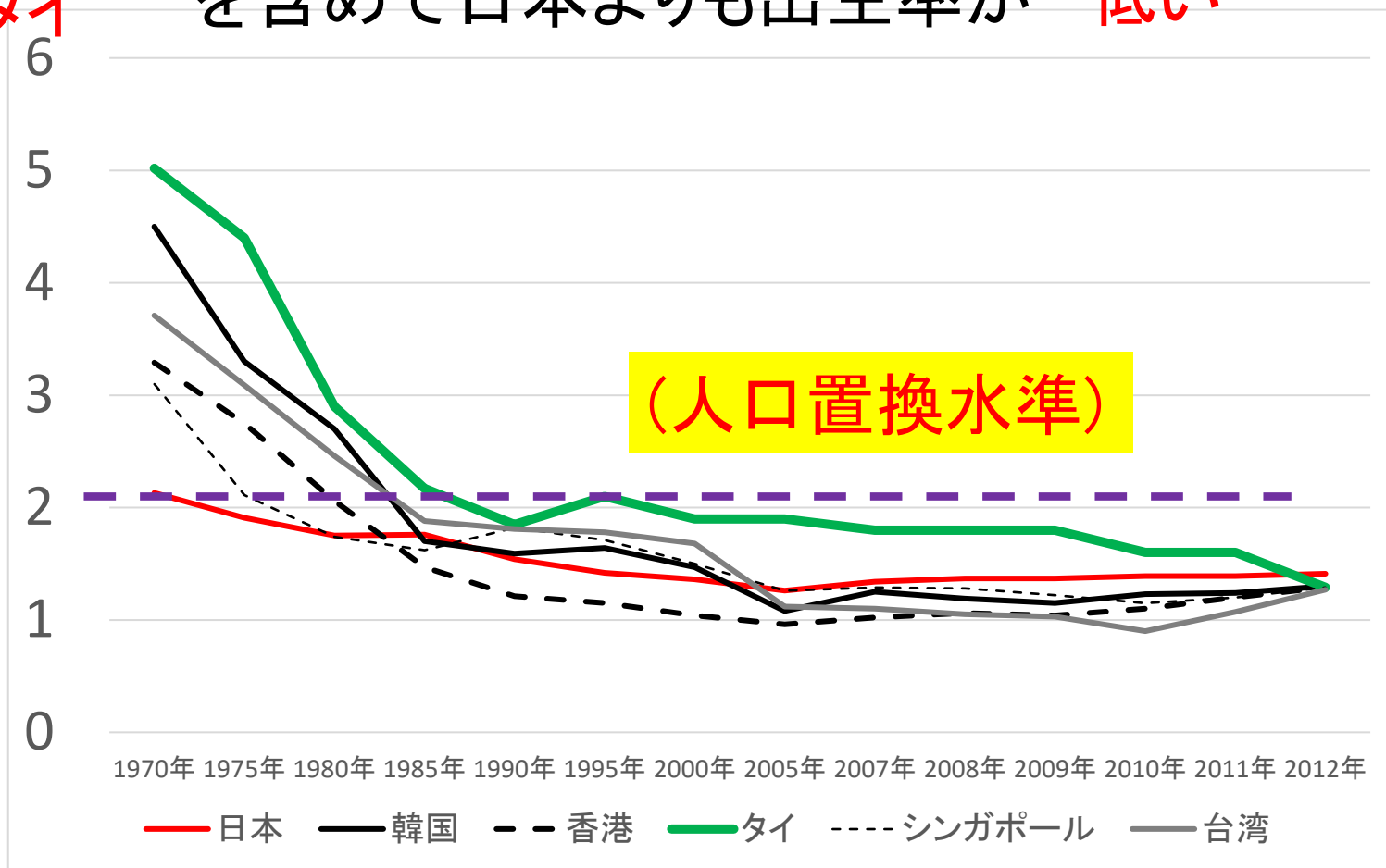
2)回復傾向 フランス・スウェーデン・イギリス

➡ 出産・子育てと就労に関して 両立支援策
がとられているため

■ 日本とアジア諸国との少子化傾向の比較

1970年の時点では、いずれの国も日本の水準を上回っていたが、2011年現在では**人口置換水準を下回り**

タイ を含めて日本よりも出生率が **低い**



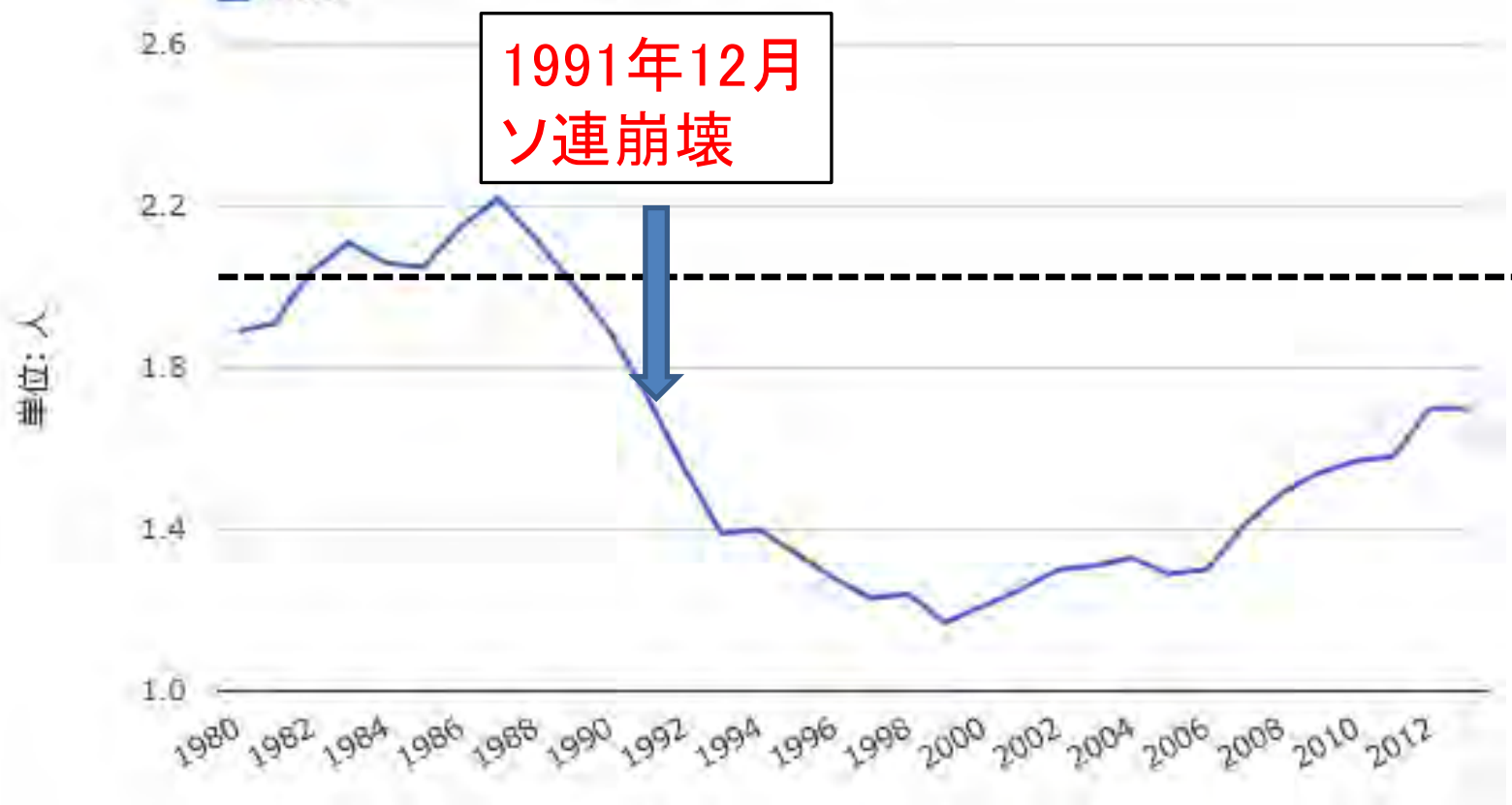
■ロシアなど旧社会主義国の少子化傾向の特殊性

■旧ソ連崩壊後

- …社会主義崩壊(**体制転換**)のストレスから
(**アルコール飲酒**)が増え,死亡率が上昇し,
少子化が進む。現在は経済発展が進み若干回復。

合計特殊出生率の推移(1980~2013年)

■ ロシア



■中国の少子化の特殊性

□1979年からの 一人っ子政策 により出生率が急減。
近年は若干回復。

